

# 9

## 城山地区

### 1 計画の重点課題

- ① 災害対策をすすめる
- ② 公共交通機関を充実
- ③ 地域交流を深める



### 2 城山地区の人口

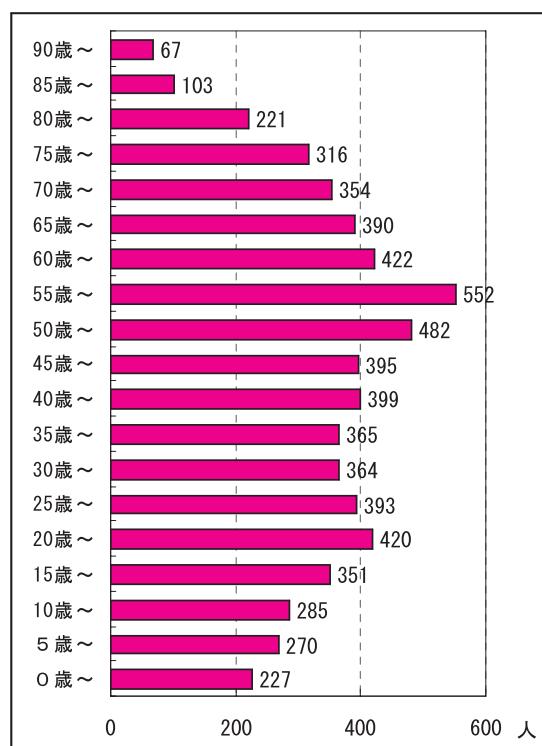
	海津市	城山地区
人口	40,071人	6,376人
対人口比	100.0%	15.9%
年少人口	5,216人	782人
年少率	13.0%	12.3%
高齢者人口	8,487人	1,451人
高齢化率	21.2%	22.8%
後期高齢者人口	4,060人	707人
後期高齢化率	10.1%	11.1%

平成20年2月1日現在

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

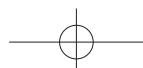
※後期高齢者人口は75歳以上の人口

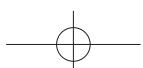


### 3 城山地区の社会資源

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津市役所南濃庁舎	海津市ケアマネジメントセンター	城南中学校	伊藤内科神経科
南濃総合福祉会館ゆとりの森	オレンジガーデン	城山小学校	藤橋医院
海津市文化会館	ケアセンターおがわ	城山小学校附属幼稚園	中野歯科
海津市保健センター			小川クリニック
南濃中部防災コミュニティセンター			
南濃温泉「水晶の湯」			
月見の里南濃(道の駅)			
羽根谷だんだん公園(さぼう遊学館)			

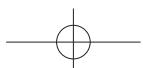
城山地区



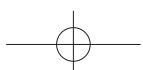


## 【課題・解決のまとめ】

分 野	最重点 課題	重点課題	自 助(自分たちでできること)
交通	○	近鉄養老線をなるべく残してほしい	○できるだけ近鉄養老線を利用する
		市バスの本数が少ない	
		交通機関が不便	○混まない時間に利用する
		市バスの時刻表ルートがわかりにくい	
子ども		学童、保育園などに長時間頼る家庭が増えている	
		自転車通学路の安全面が心配(マナーを含む)	○先生や交通指導の人がいなくても一列で乗る ○家庭でも携帯の使い方やゴミの捨て方、道路におちている缶などの処理のしつけをする ○横着な運転(自転車の乗り方)をしない
高齢者		ゴミ出しが困難な老人への配慮	○自分で出したゴミは自分で袋に入れて出す  ○出せない物は入れない  ○自分の正しい心で入れる事 ○他人に迷惑にならない物を入れる (水分が多くてポタポタ落ちる)
		在宅介護の在り方について	○相談窓口を身近に持つ (民生委員、福祉委員、支援センター、近所の友人、親戚など) ○恥ずかしいことではないので一人や家族だけ悩まない。
		高齢者の交通安全の指導	
		高齢者を地域の宝にノウハウを活かした働き場所	



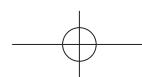
解決方法	
共助(地域でできること)	公助(行政、社協でできること)
	○電車と市バスの時刻表を連絡させる
	○マイクロバスからワゴン車にして狭い場所にも向かえるようにする ○利用者にもっと利用してもらう為にルートの見直しをして欲しい
	○停留所をもっと増やして欲しい ○バスの台数を増やして欲しい
	○学童や保育園へ入るのに必要度の高い人を優先できるようにして欲しい
○通学路の除草をする ○交通指導の人に協力をしてもらう ○クリーン活動をする	○学校で繰り返し指導する ○市でも道路の陥没などの整備パトロールをして欲しい ○歩道のない通学路はパトロールをして欲しい
○高齢者又は、身体の不自由な人に協力の手を差しのべる  ○近所の人達の声掛けも大切な事	○世話をする側とされる側に立ち、行政からも高齢者及び一人暮らしや身体の不自由な人達にもっともっと温かい思いやりと見守りと声かけをして欲しい  ○ゴミ出しの出来ない人達の為にちょっと手を差しのべて欲しい
○声掛け、あいさつをまわりからする  ○好奇心で接しない  ○困っているようなら民生委員などに一度声かけをしてもらうようにお願いする	○必要に応じて民生委員等が行政への橋渡しをする  ○高齢者にもわかりやすい広報を考える



## 【課題・解決のまとめ】

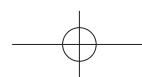
分 野	最重点 課題	重点課題	自 助(自分たちでできること)
環境		ごみのポイ捨て	○ゴミを捨てない教育をする
		各自治会、集会所の活用方法	
		見通しの悪い危険な道路の点検	
		南濃・平田・海津各々の隔たりを感じる	
情報		個人情報の取り扱いと情報の提供者について	
		広報の放送の声が間延びして聴きづらい	
防災	○	災害時の2、3日の水の確保	○災害時、行政からの援助は最低3、4日かかるので、各家庭で非常食や水、常備薬、懐中電灯、マッチ、ローソクなどをある程度備蓄しておく
		災害時の要援護者への対応	
		災害時の対策が心配	○災害時にはまず自分が助かるよう準備する ○家庭内で普段から災害避難の対応の話し合いをしておく ○自分で出来る範囲でタンスなどの転倒防止をする
		避難場所の表示を示してほしい	
地域交流		区、自治会との連絡方法及びコミュニケーション	
	○	自治会ごとの行事が少なく、交流する場がない	○家族みんなで参加する
		敬語・謙譲語が使えない (中年以下の方に多い)	○読書、テレビ、ラジオから正しい言葉を覚える
			○家族間でも十分留意し、注意し合う

解決方法	
共助(地域でできること)	公助(行政、社協でできること)
	○国道のゴミは地域では管理できないので行政で対応してほしい。(県道、市道は部落でゴミ拾いをしているが、拾いきれない)
○子どもたちの遊び場・高齢者の憩いの場として活用する ○婦人会・育成会などの自治組織が行事を行う時は集会所を無料で貸し出しそる ○危険箇所を地域で点検する	
	○危険箇所は行政が整備する
	○民生児童委員や福祉推進委員は守秘義務をわきまえているのである程度情報提供を行って欲しい
	○南濃地区は山に音がはね返り聞きづらいので旧南濃町単独の放送を希望する
○各区、自治会などでのこぎり、バール、スコップ、バケツ、金づちなどを備蓄しておく ○普段より近隣との助け合い、付き合う心構えが必要である ○自治会単位で住民の寄付を募り、災害グッズの備蓄を行う(タオルや毛布、発電機、リアカーなど) ○防災を考える会を作る ○昼間の老人の生活環境などを掌握する ○タンスなど転倒防止の器具を作っている工場を見学し、参考にする	○行政における非常食や水の確保の状況の周知 ○避難所の啓発 ○防災マップ等の資料を今一度配布してほしい
	○避難所の表示を住民にわかるよう表示してほしい
○策定委員会の場に区長・自治会長にもっと参加してもらう ○区、自治会、育成会、老人会、福祉推進委員などの共催により三世代ラジオ体操を行う(夏休みを利用)	○本計画を区長・自治会長へ連絡・報告する
	○学校教育の中で基本的な言葉遣いを徹底してほしい

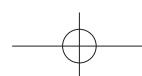


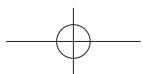
## 【課題・解決のまとめ】

分野	最重点 課題	重点課題	自 助(自分たちでできること)
行政		行政や社協、各種団体の連携が機能してない。	
		プラスチック類ゴミの収集回数を増やしてほしい	○自分たちでも不要なゴミを出さないよう努力する(例えば、エコバッグ・風呂敷などを活用してゴミを減らす)
		滞納があった場合の国民健康保険証の取り扱いについて	○自覚の義務
保健・医療		体力の衰えを感じている	



解決方法	
共助(地域でできること)	公助(行政、社協でできること)
	○各部署で連絡調整の場を持つようにする
	○県・市からメーカー・販売業者に過剰包装・パックの減少を指導する ○プラスチックごみが減少するまでは収集回数は月3回以上にしてもらいたい
	○市職員又は回収専門員を任命し、回収に努力する
○夏休みのラジオ体操を三世代で行う	





## 地区の課題(城山地区)

### (1) 生活環境

- ・子どもたちの遊び場と高齢者の憩いの場が一つの施設にあるとよい。
- ・各自治会、集会所の活用方法について。
- ・自治会で危険箇所の点検（通学路・街路灯・交通安全）について。
- ・海津・平田庁舎より登校時間帯に市営バスを駅まで出せないか。

### (2) 地域交流

- ・地元自治会で独自の行事がない。
- ・区・自治会との連絡方法及びコミュニケーションについて。
- ・同じ自治区の住人でも世代が違うと誰かわからない。
- ・郷土料理を高齢者が教えて、主婦・若者が覚えられる料理教室などがあると交流が幅広くなるのでは。昔ながらの体験教室など。
- ・高齢者のいじめを予防するため（特に家族によるもの）、地域で見守るべき。

### (3) 交 通

- ・公共施設への交通機関の便がない。
- ・交通機関が不便（現在は車に乗っているが将来は心配）。
- ・市バスの時刻表、ルートがわかりにくい。わからない。
- ・近鉄養老線をなるべく残して欲しい（高校進学など子どもたちの将来の選択肢がなくなってしまう）。

### (4) 子ども

- ・学童、保育園などに長時間頼る家庭が増えている。
- ・子どもたちの余暇活動に親の負担が多く子どもが参加できなくなることがある。
- ・子どものあいさつがしっかりしており、これからも指導を続けてほしい。
- ・自転車通学路の安全は十分か。
- ・子ども会で資源回収をしているが、少人数で低年齢化で困っている。

### (5) 高齢者

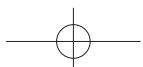
- ・車に乗れないので買い物に行くのに困る（ひとり暮らし）。
- ・ゴミ出しが困難な高齢者への配慮について。
- ・高齢者を地域の宝に。またノウハウを活かした働き場所について。
- ・家族の介護に関するここと。

### (6) 情 報

- ・情報がなかなか全体に行き渡らない。
- ・個人情報の取り扱いに社会全体が過敏になりすぎている。
- ・育児・介護の的確な情報提供者が身边にいない。

### (7) 防 災

- ・災害時（地震・台風等）、特に高齢者への近隣への配慮について。
- ・自然災害が起きたときの不安。自分が逃げられるか、人を助けられるか。
- ・災害時、要援護者は本人の申し出がなくても地区自治会で把握すべきである。



# 10 石津地区

## 1 計画の重点課題

- ① 地域のコミュニケーションを図る
- ② 子どもの見守りと地域住民との交流
- ③ 地区防災訓練の実施



## 2 石津地区の人口

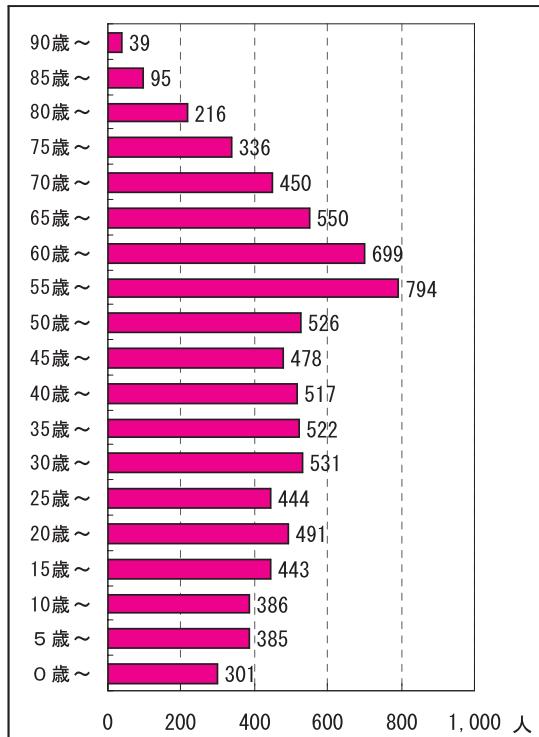
	海津市	石津地区
人口	40,071人	8,203人
対人口比	100.0%	20.5%
年少人口	5,216人	1,072人
年少率	13.0%	13.1%
高齢者人口	8,487人	1,686人
高齢化率	21.2%	20.6%
後期高齢者人口	4,060人	686人
後期高齢化率	10.1%	8.4%

平成20年2月1日現在

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

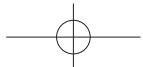
※後期高齢者人口は75歳以上の人口

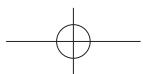


## 3 石津地区の社会資源

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
働く女性の家	野村デイケア	南濃中学校	森木医院
南濃地域防災センター	デイサービスよもぎ	石津小学校	可知医院
海津市消防署南濃分署	グループホーム南濃「福寿苑」	石津小学校付属幼稚園	野村クリニック
	南部保育園		中尾皮フ科クリニック
	石山保育園		大井耳鼻咽喉科
			鷹尾眼科
			曾根歯科医院
			石川歯科
			木村歯科医院
			野村歯科医院
			南濃歯科

石津  
地区





海津市地域福祉活動計画  
石津地区策定委員会

◆ 石津地区地域福祉活動計画 ◆

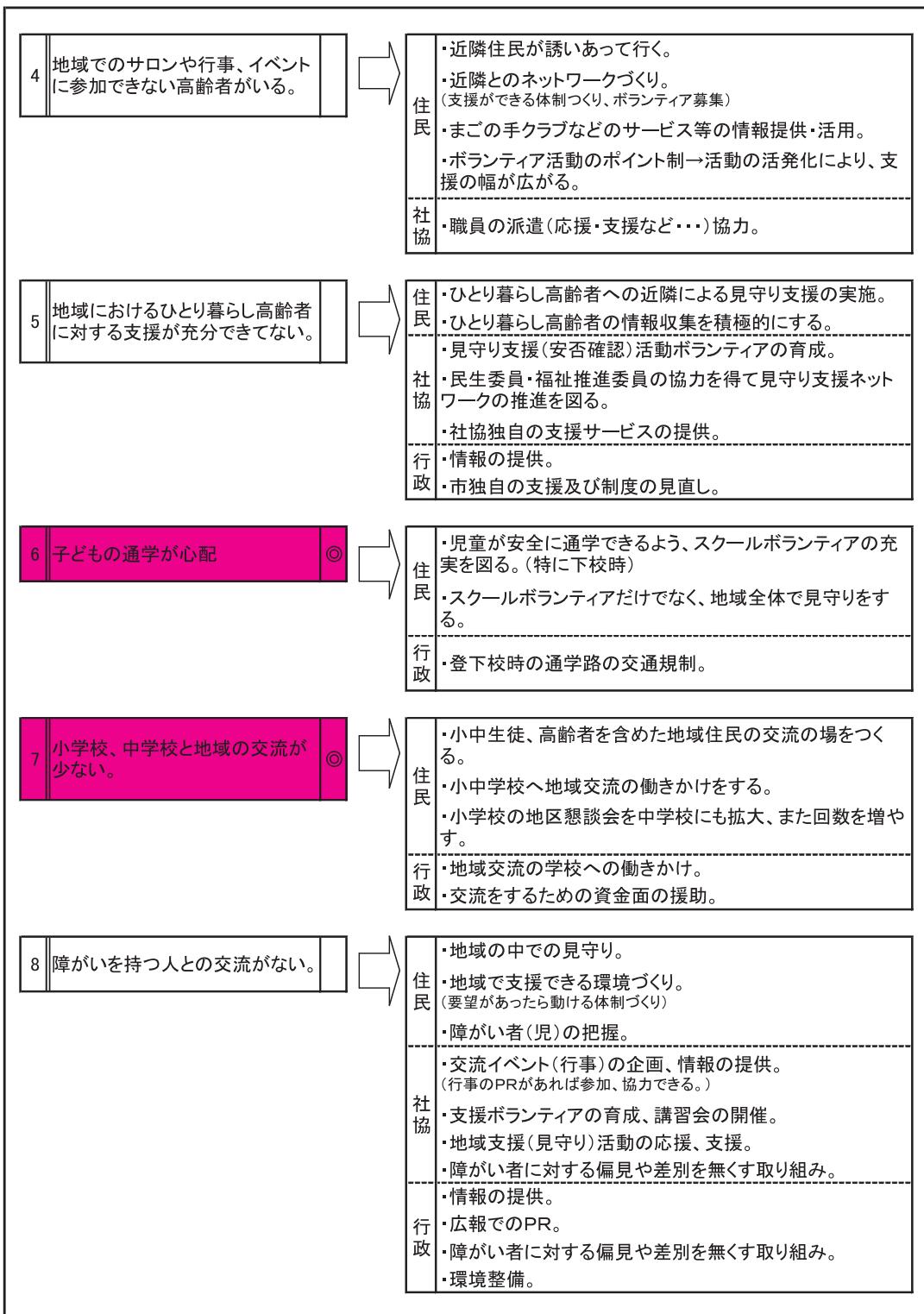
課題・推進体系図

推進課題

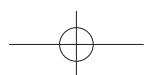
推進方法

重点

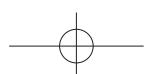
1	地域においてコミュニケーション、交流が不足している。	◎	住民	<ul style="list-style-type: none"><li>声かけ(あいさつ)運動の推進。</li><li>日頃から近隣の見守り活動を行う。</li><li>近隣の助け合いが出来る様に日頃の環境づくり。</li><li>老人クラブ、育成会など自治会内団体の、縦のつながりから横のつながりへ(連携を図る)</li><li>高齢者と児童の交流会を開催し、地域の高齢者・子どもの見守り活動につなげる。</li><li>季節行事を各地区イベントとして行い、小学校区全体でコミュニケーションを図る。</li></ul>
2	地域におけるボランティア活動の参加者が少ない。	◎	住民 社協	<ul style="list-style-type: none"><li>地域住民の協力体制、地域のコミュニケーションの強化。</li><li>地域のボランティア活動に積極的に参加してほしい。</li><li>「あの人人がやっているからわたしも…」活動希望者のボランティアの輪を広げる(口こみなどで)。</li><li>社協広報誌でのPR、活動情報の提供(案内や紹介)。</li><li>ボランティアの育成。</li><li>活動に付加価値を付ける。</li></ul>
3	高齢者の憩いの場、交流の場が少ない。	◎	住民 社協	<ul style="list-style-type: none"><li>ふれあいいきいきサロンの活動を広げ仲間つくり交流のきっかけとする。 (老人クラブの協力を得る。) (食事会など飲食をきっかけにする。) (囲碁・将棋・麻雀、福祉映画など、気軽に楽しめる環境つくり。)</li><li>地区の福祉活動を、『石津地区福祉だより(仮称)』を発行する。 (回覧板でまわすことにより、地区の福祉活動の情報提供を行う。)</li><li>ふれあいいきいきサロンの活動のきっかけづくり。 (行事のない時期に交流の場を設定する。) (ボランティアなどと協力し、交流の場として、ミニ喫茶として開放。) (既存の施設を有効活用する。)</li><li>福祉推進委員が中心となって活動ができるとよい。 (住民も積極的に参加、協力する。)</li><li>職員の派遣(応援・支援など…)協力。</li></ul>



石津地区



9	災害時にどうすればいいか分かららない。	◎		<p>住民</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域での防災訓練の実施。</li><li>・普段からの近隣とのコミュニケーションづくり。 (災害時に機能できる近隣の見守り体制づくり。)</li></ul> <p>災害時に何をすれば良いか高齢者にわかりやすく説明が必要。</p>	<p>行政</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・防災訓練の実施。 (小地域から校区までの広い地域で防災活動を考える。)</li><li>・災害時における要援護者の手助け方法など、防災活動の周知PR(広報等)。</li></ul>
10	防災訓練時の参加者が少ない。 防災意識が希薄。	◎		<p>住民</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・防災訓練に積極的に参加する。</li><li>・災害時に何をすればいいか、高齢者にわかりやすく説明が必要。</li></ul>	<p>行政</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・防災訓練の内容の見直し(訓練のPR)。</li><li>・小地域で訓練し、避難所の確認が必要。 (本当に行政の決めた避難所でも大丈夫なのか、住民も交えて見直しの必要がある。例:南部グランドは自宅よりも低い所にあるため、避難できない。)</li><li>・災害時の要援護者の対策。</li></ul>

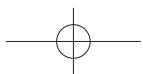


**海津市地域福祉活動計画  
石津地区策定委員会**

**行政・社協への要望**

1 不安や困りごとについてどこに相談していいか分からな い。	不安や困りごとを相談できる窓口を明確にしてほしい！！！ 市報や社協報に様々な窓口が掲載されているが、どこに相談に行けばいいのか、分からぬ。誰でも分かりやすいように、窓口を分かりやすくPRしてもらいたい。 たくさんの人目に触れるようPRを強化してもらいたい。 福祉推進委員、民生児童委員の協力を得てPRを強化する。
2 広報海津が聞こえにくい。	広報海津を聞こえやすくしてほしい！！！ 広報海津が聞こえづらい、聞こえやすくしてほしい。
3 子育てに悩む人への支援。	地域における子育て支援の実施！！！ 石津地区は、働く女性が多く、母親が働きやすい環境の整備が必要である。留守家庭、延長保育など利用しやすくしてもらいたい。
4 市営巡回バスが走っているが利用するのに不便である。	巡回バスを利用しやすくしてほしい！！！ 行程の見直し、養老線の時間にあわせた巡回バスの運行を考えてもらいたい。
5 専門の医療機関が海津市に少ない。	専門の医療機関の充実と産婦人科を開設してほしい！！！ 海津市には専門の医療機関が少なく、小児科、産婦人科等を開設してもらいたい。
6 ヘルパーの業務外の事をお願いしたいが、どうすればいいのか。(介護保険外)	介護に関する情報を提供してほしい！！！ 介護保険外のサービスを提供している団体(まごの手クラブ等)の情報等をもっと提供してほしい。
7 防災訓練時のPR不足。	防災訓練のPRの強化！！！ 広報や、講習会での周知・PRの徹底。 災害準備の内容をもっと充実させた方が良いのでは。 (防災袋の中に各自の連絡先を明記する。)
8 個人情報保護により様々な活動が制約される。	個人情報保護法を正しく理解してほしい！！！ 個人情報により住民活動が制約されることがある、必要に応じ個人情報の見直しをしてほしい。
9 ゴミ出しのルールが守られていないことが多い。	ゴミの分別を分かりやすくしてほしい！！！ ごみの分別が、分かりにくく、もっとわかりやすくしてもらいたい。 (分かりやすいものを用意してもらいたい。)

石津地区



## 地区の課題（石津地区）

### (1) 地域

- ・子どもと地域の高齢者のふれあう場が、小さい区域であるとよい。
- ・小学校付近、道が狭く救急車等の車が入りづらい。
- ・不安や困ったことについて、どこに相談してよいかわからない。
- ・次々と施設等を建設するのではなく、現在のものをもっと有効に。

### (2) ボランティア

- ・当地区においてボランティアさんが少ないのが気がかりである。
- ・自分の住んでいる地域の中でもっと色々なボランティアが出来るはず。
- ・地域住民のボランティア活動への参加。
- ・地区内の清掃活動（ボランティア）。

### (3) 高齢者

- ・高齢者にゴミの分別は難しい。
- ・ひとり暮らし高齢者の増える一方で、別居している家族のかかわりが少ないので。
- ・一人暮らしの人とのコミュニケーションが不足している。
- ・ひとり暮らし高齢者が困った時に近所の相談相手を決めているか。
- ・高齢世帯、ひとり暮らし高齢者の情報ネットワークの確立。

### (4) 子育て

- ・親子ふれあいサークル（お母さんと一緒に遊ぼう）。
- ・地域での子育て支援。
- ・子どもの虐待について。

### (5) 少子化問題について。

- ・子ども達との挨拶運動。
- ・中学校統合に不安。（通学の便等）
- ・子どもの福祉教育は学校単位より地区単位（育成会）がより効果的。
- ・子どもの登下校時（特に下校時）の安全確保。
- ・小学校の運動会に地区の交流を一部プラスする。

### (6) 医療・保健

- ・急病で医療機関に行くときの足の確保はどうればよいか。
- ・熟年層に特化した健康増進のイベントが少ないような気がする。

### (7) 介護

- ・家族の中で介護が必要になったときのことを思うと不安。
- ・介護サービスに関する情報をもっと知りたい。
- ・介護タクシーの充実。

### (8) 防災・防犯

- ・災害時の非常事態のことを考えると、特に高齢者の情報交換が心配である。
- ・災害時を想定した近隣助け合いの具体的的活動の訓練。
- ・地区内の自然災害に弱い所の確認。
- ・災害時の食糧調達の一環としてコンビニとの協力、協定。

### (9) 交通

- ・養老鉄道の利用促進はできないだろうか？（廃線にならないか心配）。